

## 信じてきたものが崩れ去る衝撃

M1 看護学領域 矢作 房 （看護専門学校教員）

衝撃の告発内容でとりはだかたちました。

新聞や雑誌等で取り上げられている記事は見ていたのに、まさに対岸の火事でした。内部告発の勇気とその代償、そして戦い続けるエネルギーの消耗はいかばかりかとお察しいたします。

看護師も知っていたのでしょうか。

としたなら、とてつもなく悲しい現実だと思いますし、先生が立ち上がられたことは英断だと感じます。

信用と信頼関係が根底から覆された感覚に怒りで震えてしまいました。これも生の声を聴くことができたからです。

多くの医療機関に勤める麻酔科医にも波紋が飛び火したのではないかと思います。

麻酔科医の不足は国の教育政策の問題、医学教育の体制の問題、組織風土の問題、さまざまな問題が絡み合って起き続けたのだと考えました。

パワーハラスメントの影響をもちに受けてしまったのは

先生が女性であることによるジェンダーの問題もあるのではないかと推測しました。

裁判が続いているとのこと、自分を壊してまで戦い続けることがすべてではありませんので、くれぐれも健康には留意されますように。

今まで長年信じてきたものが崩れ去る衝撃は大きかったです。

これが当事者に学ぶという講義の意味なのですね。

倫理観を深く考えさせられる時間となりました。

看護師教育に携わっていることから、倫理観の教育の重要性を改めて感じ、

また自分の領域だけでとどまることなく、アンテナを立てる必要があると学びました。